

平成 21 年度

公立大学法人会津大学の業務実績に関する評価結果

平成 22 年 9 月

福島県公立大学法人評価委員会

第1 「全体評価」

公立大学法人会津大学(以下「法人」という。)に係る平成21事業年度の業務実績については、法人自らが実施した年度計画の自己評価は383項目中345項目について、「A：年度計画を上回って実施している」又は「B：年度計画を予定どおりに実施している」であり、次の法人化の特色を生かした運営がされている。

- 理事長のリーダーシップによる透明性の高い迅速な意思決定に基づき、組織、人事、予算などの面での自由度を生かした自主的・自律的な運営
- 学外者や専門家の幅広い視野、地域社会のニーズ等を踏まえた特色ある運営

全体として、法人は、1法人2大学(会津大学、会津大学短期大学部)として、法人化後4年目となる平成21年度においても、厳しい大学間競争やグローバル化の中で、理事長のリーダーシップの下、役員会、経営審議会、教育研究審議会等の各機関や教職員が相互に緊密な連携を図り、学問や科学技術の進歩、産業・文化の振興などの県民の期待に応えるため、法人を挙げて中期目標の実現に向け、それぞれの大学の特長を生かしながら、人材育成や研究、地域貢献、国際交流などに積極的に取り組み、成果を出しておる、高く評価できる。

なお、一部には取組みが十分でない課題等も見受けられ、今後一層の着実な計画の実施が求められることから、引き続き教職員が一丸となって御努力いただき、さらなる成果を上げられるよう期待する。

1 会津大学

会津大学(以下「四大」という。)では、コンピュータ理工学の分野において国内外で活躍できる優秀な研究者・技術者の養成、地域貢献などのため、最新のコンピュータ理工学の内容に合わせた学部カリキュラムの改正及び学科の統合、大学院における専攻の統合や先導的なIT人材育成のための専攻の設置、月周回衛星「かぐや」にかかる研究を始めとする特色ある研究、中高一貫教育校との高大連携協定に基づく連携や各種公開講座の開催、「パソコン甲子園」の実施、「会津ITサマーフォーラム」の開催、「国際IT日新館」の開設、先端情報科学研究センター(CAIST)の開設、「学部・博士前期課程5年一貫教育プログラム」の導入、平成23年度からの学生寮の開設に向けた取組み、国際戦略本部による海外大学との国際交流協定の締結及び当該締結校との具体的な交流、国内外からの国際的に優れた教育研究者の採用等に取り組んでおり、それらのことについて評価できる。

2 会津大学短期大学部

会津大学短期大学部(以下「短大」という。)では、専門分野(産業・経営、デザイン、情報、環境、栄養、食品、健康、福祉及び保育等)を生かし、より地域に密着した形で、専門的知識を有する職業人育成、地域貢献などのため、少人数教育の実施、「地域プロジェクト演習」による地域課題解決への参画、授業評価の公表や教員への周知による授業改善、新たなFD(faculty development:教員能力開発)活動の実施、オフィスアワーの活用によるきめ細やかな学生への対応、生活に密着した専門分野を生かした研究、地域活性化センターを活用した県機関との連携による各種地域活性化事業への連携・協力、教育研究活動等に関する積極的な広報の実施、派遣講座の実施等に取り組んでおり、それらのことについて評価できる。

第2 「項目別評価」

1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

(1) 教育に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

[平成21年度で評価できる取組み○(又は検討課題等△)]

(四大)

- 学士課程については、平成20年4月に、コンピュータ理工学科に再編したカリキュラムを全学年に適用し、履修計画システムを始動するとともに、履修アドバイザーによる学生への的確なアドバイスときめ細かな指導に努めた。
- 大学院課程については、社会情勢の変化を踏まえ、平成20年4月から、これまでの2専攻(情報システム学専攻、コンピュータシステム学専攻)を「コンピュータ・情報システム学専攻」の1専攻に統合するとともに、博士前期課程には、世界最高水準のITスペシャリストを育成するための「情報技術・プロジェクトマネジメント専攻」を設置し、「コンピュータ・情報システム学専攻」については学生の個人的活動(修士論文作成)として円滑に運用し、「情報技術・プロジェクトマネジメント専攻」については4つのチームに分かれて、ソフトウェア開発アリーナを中心としたチーム単位で活動した。
- 優秀な学生の大学院進学者の増加を図るため、学部の前期段階から大学院進学のモチベーションを高め、計画的かつ円滑に5年で修士学位が取得できる「学部・博士前期課程5年一貫教育プログラム」を平成21年度から導入した。
- 学部1年生を対象に、コンピュータ理工学を学ぶ意義を理解してもらうために実施している「コンピュータ理工学のすすめ」の講義において、著名な専門家を講師として招へいするとともに、各フィールド別履修アドバイザーにより履修のガイダンスを行った。
- アドミッションポリシー(入学者受入方針)に基づき、優れた入学者を確保するため、他団体主催の進学相談会に51回参加するとともに、県内外の高校延べ28校に延べ30名の教員を派遣して出前講義を行った。
- 留年や中退を減らし、毎年定員(240名)以上の卒業生を輩出することを目的に、平成19年度より文部科学省の「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」で「プロジェクト卒業生240+α」が採択され、これに基づき修学支援室を設置し、修学支援員等を常駐させ、TAも活用しながら、修学状況に不安や悩みのある学生に支援を行った。
- 教育の質の向上のため、各学期ごとに学生による授業評価を実施した。
- 大学院で修学する経済的に困窮している優秀な外国人留学生を支援するため、会津大学奨学金研究留学生制度に基づき、平成21年度は前期・後期各4名の留学生に奨学金を交付した。
- 共同生活による学生の社会性や修学意欲の向上、外国人留学生との共同生活による国際的感覚の醸成などの教育的効果を目的として、平成23年4月の入居開始を目指し、(仮称)会津大学修学支援宿泊施設建設工事に着工した。
- FD(faculty development:教員能力開発)推進委員会で、成績評価の方法・基

準の記載方法を含めたシラバスの改善方針を作成し、それに基づきシラバスの作成要領を定めて、各教員に周知し、シラバスを作成した。

(短大)

- 訪問マニュアルに基づき、県内高校 68 校及び県外 50 校を教員が訪問するなど積極的な広報活動を行うとともに、入学試験制度等を更に見直し、入学者確保に向けて取り組んだ。
- 模範的な在学生を出身高校に派遣して情報提供を行うホームカミングレポーターを昨年度に引き続き実施し、志願者の確保に努めた。
- 新入生ガイダンス時に奨学金制度について周知するとともに、出身地自治体からの奨学金については該当者に個別に案内した。
- 全授業科目について、アンケート調査「学生による授業評価」を実施し、教職員の授業等の改善に供したほか、FD 小委員会へ情報提供し、授業改善に資した。
- 多様な地域課題をテーマにして学科横断的に解決を図る教育の実施体制を整えるとともに、平成 20 年度から「地域プロジェクト演習」を設け、地域課題の解決に学生が積極的に参画できるようにし、全学科で受講できるように自由科目とした。
- 少人数教育を実施するとともに、全教員が週 1 回以上のオフィスアワー（※1）を設定して、学生に周知し、学習指導、進路相談及び生活相談についてきめ細かく対応した結果、平成 21 年度の指導・相談件数は、平成 20 年度と比較して増加した。
- 各種手続きや進路情報の提供などを一元化した学内 Web ポータルサイト「Pota.」をトラブルなく運用し、学生・教員・事務局間の円滑な情報共有環境を提供した。
- 資格取得希望者に対する指導等に努めた結果、中期計画の数値目標について、食物栄養学科の栄養士免許資格及び社会福祉学科の保育士資格では数値目標を達成し、社会福祉学科の社会福祉士受験資格ではわずかに及ばなかった。

栄養士免許資格 実績 100.0% (数値目標 100%)
保育士資格 実績 100.0% (数値目標 100%)
社会福祉士受験資格 実績 95.8% (数値目標 100%)

(共通)

- 四大、短大ともに就職活動に対する各種支援を行い、中期目標の数値目標(就職希望者の就職率)について、四大(大学院)及び短大では数値目標を達成し、四大(学部)では及ばなかった。
 - 四大(学部) : 実績 92.5% (数値目標 100%)
 - 四大(大学院) : 実績 100.0% (数値目標 100%)
 - 短大 : 実績 95.9% (数値目標 95%)
- 四大では専任の就職相談員 1 名が、短大においてはキャリア支援センターの専任のキャリアアドバイザー 2 名が、進路・就職相談などを実施した。

(2) 研究に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

[平成 21 年度で評価できる取組み○(又は検討課題等△)]

(四大)

- 「イノベーション JAPAN 2009」においては、広く国内企業等に対して新技術の紹介を行った。
- 会津大学として初の試みである独立行政法人科学技術振興機構（JST）との「新技術説明会」を開催し、教員 6 名が特許出願中の技術について、実用化を展望した技

術説明を実施したところ、10件の問い合わせがあった。

- 重点的に推進すべき特定プロジェクトについて横断的に取り組むため、講座の枠を越えて教員を配置する研究組織として、先端情報科学研究センター（C A I S T）を平成21年4月に開設し、宇宙情報科学クラスター、地球環境クラスター、医学・医療クラスターの3つのクラスター（講座の枠を越えた研究チーム）を設置し、研究の拠点化を図るとともに、複合領域等の研究活動を開始した。
- 平成21年1月からU B I Cに採用された知的財産を担当する専任教員と知的財産管理アドバイザーによる助言指導を行い、3件の特許申請に至った。
- △ 研究経過や研究成果の評価を行うためのデータ収集が求められる。

(短大)

- 平成21年度においては、地域活性化センターを中心に多様性、融合性、創造性及び相乗性を大切にして、地域の産学官民と共同・連携して以下の事業について、卒業研究や地域プロジェクト演習の一環として学生も参加し、地域課題を取り上げ、実践的教育・研究を行い、大きな成果を上げることができた。
 - ①空き家等地域情報発信のための整備に関する事業(南会津地方振興局からの受託事業)
 - ②「『会津の宝』活用事業」地域情報発信事業(会津地方振興局との協働事業)
 - ③久保田グリーン・ツーリズム推進協議会事業に対する支援
 - ④磐梯町活性化プロジェクト業務(磐梯町からの受託事業)
 - ⑤上雨屋地区活力再生事業(会津若松市上雨屋地区からの受託事業)
 - ⑥閘川集落炭焼きの里再生支援事業(会津若松市閘川集落からの受託事業)
 - ⑦「新たな機能を付加した会津桐によるバリアフリー商品の開発」でコンソーシアムを形成していた県内企業と共同研究契約を締結するとともに、中小企業基盤整備機構の地域資源活用支援事業の法認定や事業化に協力(経済産業省地域資源活用型研究開発事業)

(3) 地域貢献に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められるが、地域産業の振興に向けた更なる取組みが期待される。

[平成21年度で評価できる取組み○(又は検討課題等△)]

(四大)

- 第7回目となる「パソコン甲子園2009」を実施し、高校生の技術向上、IT人材の育成に寄与した。
- 各教員等が担当し、公開講座を15回、教員派遣公開講座を15回実施した。出前講義は県内外の高校延べ28校に延べ29名の教員を派遣した。
- 平成18年度に締結した県立会津学鳳高校(中高一貫教育校)との高大連携協定に基づき、6名の高校生を大学の授業で受け入れるとともに、大学教員延べ6名を会津学鳳高校・中学校に派遣し、「スポット講義」(数学、英語、情報等)を実施した。
- 地元のベンチャー企業等と連携し、国際的にも通用する会津発グローバルITリーダーを育成する人材育成プログラム「国際IT日新館」においては、アジアからの留学生を大学院博士前期課程に国費留学生として受け入れ、専門教育のほか、英語のみならず日本語での教育プログラムを実施した。
- 大学を会場として、本年度で13回目となる「コンピュータサイエンスサマーキャンプ2009」を、地元N P O、自治体、企業等14団体・機関で構成する実行委

員会の主催により開催し、JAVAプログラミングなど3つのコースに国内の中高生56名が参加した。

- 会津地域を含む県内外のIT企業と連携して、「会津ITサマーフォーラム2009」を開催し、「クラウド」「Web」「ベンチャー・地域」をキーワードとした基調講演、分科会等を行い、県内外のIT企業、技術者、研究者をはじめ、地域住民や地元企業、学生等約370名が参加した。

(短大)

- 各教員等が担当し、公開講座を2回、派遣講座を115回実施した。
- 地域活性化センター運営推進会議を2回開催し、地域課題の共有化、地域連携の推進、地域連携事業の助言・提言、企画運営の計画立案について協議した。
- 地域活性化センターの主な事業として、上記①「空き家等地域情報発信のための整備に関する事業」では、空き家・空き店舗のデータベースを構築した。上記②「『会津の宝』活用事業」地域情報発信事業では、地域資源を活用した動画を目玉としたHPを作成した。上記③「久保田グリーン・ツーリズム推進協議会事業に対する支援」では、効果的・継続的な事業展開のためのプログラムの構築などを行った。上記④「磐梯町活性化プロジェクト業務」では、特産品を販売するためのパッケージデザインなどの企画提案を行った。上記⑤「上雨屋地区活力再生事業」及び上記⑥「閑川集落炭焼きの里再生支援事業」では、地域活性化の柱となる特産品などの開発について協力したほか、グループホーム設計支援業務、ネットショップ開業セミナーの開催、各種デザインコンペなどを行った。

(4) 国際交流に関する目標を達成するための措置

【評価】「I：年度計画を十分に実施できている」と認められる。

[平成21年度で評価できる取組み○(又は検討課題等△)]

(四大)

- 国際戦略本部において海外の大学との国際交流協定締結を進め、中期計画の数値目標(締結校15校)に対し、平成21年度末で既に47校との締結を行い、大きく数値目標を上回っている。また、デュアルディグリープログラム(※2)に関する覚書を1校と新たに締結した。
- 交流協定に基づく具体的な取組みとして、国際学会や国際会議の開催のほか、学部生交流(注1)及び大学院生交流(注2)を積極的に行った。

(注1)ポルト大学(ポルトガル)、ノボシビルスク国立大学(ロシア)

ローズハルマン工科大学(米国)、テイラーハイスクール(米国)

(注2)ハルビン工業大学(中国)、サンクトペテルブルク国立大学(ロシア)

上海交通大学(中国)

(短大)

- 会津大学で行われた「欧洲理工系学生との交流会」に全学から参加を募り、13名が参加した。

2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためによるべき措置

[1 運営体制の改善 2 教育研究組織の見直し 3 人事の適正化 4 事務等の効率化・合理化]

【評価】「II：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

[平成21年度で評価できる取組み○(又は検討課題等△)]

(四大)

- 法人化を機に設けた従前の講座単位にとらわれない採用方針により、国籍を問わない国際公募による募集を行い、優秀な教員の確保に努めた。(平成21年4月：10名、7月：1名、9月：4名、10月：2名、平成22年1月：1名採用)
- 教員の教育・研究への意欲を喚起できるよう准教授から上級准教授への学内昇任基準を、平成19年度に整備し、平成21年度においては3名の准教授について、上級准教授への昇任を行った。
- 専門的知識、能力を有する大学法人職員の採用については、段階的、計画的な採用を行うため、職員採用試験を実施し、平成21年4月には4名を採用した。
- 文部科学省等の採択事業において、そのプロジェクトに付随した専門的知識・能力を有した職員を期限付き職員として、16名を採用した。
- 男女共同参画社会の実現に向け、教員については、国際公募を通じて、職員については、法人職員採用試験を通じて優秀な女性の採用に取り組んだ。(平成21年度実績は以下のとおり)

教 員 男17名 女 1名

職 員 男 0名 女 4名

計 男17名 女 5名 (男77.3%、女22.7%)

- 研究費の計画的かつ効率的な執行を図るため、年度末残高相当額を翌年度の配分額に加算する実質的な繰越制度を創設した。

(短大)

- 教員の女性比率は、40%と高く、男女共同参画社会の実現に向け、優秀な女性教員の採用に取り組んでいる。

(共通)

- 平成20年度より、研究費等不正防止計画推進室を設置し、文部科学省の要請する公的研究費不正防止体制を整備した。
- 給与・旅費等の支払業務、決算時の経理業務等については、事務処理の合理化等を推進するため、人材派遣会社に委託している。

3 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

【1 外部研究資金その他の自己収入の増加 2 経費の節減 3 資産の運用管理の改善】

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

[平成21年度で評価できる取組み○(又は検討課題等△)]

(四大)

- 科学研究費補助金などの様々な公募型外部資金に関する情報を速やかにメールで通知するとともに、研究棟の専用掲示板により公募情報を案内した。科学研究費補助金については、教員37名が申請し、28名が採択となった。
- 寄附金取扱規程については、大学のホームページに掲載して周知を図るとともに適切な運用に努めた。

(短大)

- 地域活性化センターを核として、様々な競争的公募型外部資金（補助金制度）に関する情報について速やかに提供するとともに、科学研究費補助金について説明会を開催した。科学研究費補助金には5件、福島県学術教育振興財團補助金には6件の計11件申請した。
- 民間企業及び団体から、デザイン教育振興経費及び図書購入費として、各1件の

寄附金を受け入れた。

4 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価に関する目標を達成するためにとるべき措置

【1 自己点検評価の実施 2 第三者評価の実施 3 評価結果の活用】

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

[平成21年度で評価できる取組み○(又は検討課題等△)]

(四大)

- 認証評価機関（※3）である独立行政法人大学評価・学位授与機構で認証評価を平成22年度に受検するため、大学機関別認証評価自己評価書にかかる説明会を実施し、自己評価書の作成に着手するなど外部評価受検のための準備を進めた。
- FD推進委員会を平成21年6月1日に設置し、毎月1回程度の委員会を開催しながら、FD通信の発行、シラバスの改善、授業評価の改善、FD講演会及び学生FD会議等のFD活動を実施した。
- △ 教員評価に向けた検討組織の設置等が求められる。

(短大)

- 独立行政法人大学評価・学位授与機構で認証評価を平成22年度に受検するため、新たに機関別認証評価委員会を発足させ、評価の実施体制、担当部門等の受検体制を強化するなど外部評価受検のための準備を進めた。
- FD小委員会において、新たなFD活動に取り組むにあたり、効果的なFD活動を推進するために、これまでの活動による各教員の授業改革についてアンケートを実施した。

5 教育及び研究並びに組織及び運営の状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

[平成21年度で評価できる取組み○(又は検討課題等△)]

(四大)

- 大学ホームページについては、リニューアルし、大学パンフレットは拡充とともに、大学の教育研究活動を報道機関に発表する記者会見を開催するなど積極的な広報活動を実施した。
- オープンキャンパスに併せて実施しているオープンラボ(研究室公開)の研究室数は21（平成20年度は18）となり、入場者は平成20年度と比較して増加した。
- 専任の広報嘱託員による広報業務体制の強化に努め、大学見学者を案内するなど積極的な広報活動を実施した。
- 教育旅行は23件の受入れを行い、学内案内のほか、学内講師によるワークステーション体験、産学イノベーションのマルチメディア体験などを実施した。

(短大)

- 大学ホームページについては、改訂を継続し、教育研究活動については、研究年報及び各事業活動報告書等をホームページに公開するなど積極的な広報を行った。
- オープンキャンパスを学園祭でも行い、年2回開催した。
- 研究年報についてはCD-ROM化して関係機関に配付し、全文をホームページで公表するとともに、国立情報学研究所のCINiiにも公開した。

6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置

【1 施設設備の整備・活用等 2 健康管理・安全管理】

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

[平成21年度で評価できる取組み○(又は検討課題等△)]

(四大)

- 学内全域について、「人にやさしいまちづくり条例」で定める基準への適合状況を調査し、重要度や緊急性の高い部分について、改修を行った。
 - 消防防災ヘリ及び県警ヘリの緊急ヘリポートとしてグランドを提供し、救助活動や捜索活動のネットワークづくりに貢献した。
 - 落葉や刈芝を堆肥化し、剪定枝をチッパー化して、緑地管理における廃棄物の発生を抑制し、CO₂の排出を削減した。
 - 関係機関の指導を受けながら、教職員に対する救急救命講習会等を開催し、衛生教育の徹底を図った。
- △ 教職員の健康管理のため、教員の健康診断受診率の一層の向上が求められる。

(短大)

- ユニバーサルデザイン推進の観点から、障がい者用トイレについて、ドアを改修するとともに、おむつ交換台、非常通報装置等を設置した。
- 学生相談室を新たに整備した。
- ガイダンス等で学生相談室及び保健室について周知した結果、それぞれ利用者が増えた。

※ 1 オフィスアワー

教員が各研究室等において、学生の履修相談や授業に関する質問などに応じるために待機している特定の時間のこと

※ 2 デュアルディグリープログラム

提携大学で取得した単位の相互認定により2つの大学の学位を取得できる制度のこと

※ 3 認証評価機関

国立、公立、私立大学（短期大学を含む。）及び高等専門学校は、その教育研究水準の向上に資するため、教育研究、組織運営及び施設設備の総合的な状況に関し、7年以内ごとに、文部科学大臣が認証する評価機関の実施する評価を受けることが義務付けられており、その認証された評価機関のこと

2 項目別評価 総括表

公立大学法人会津大学

評価項目		公立大学法人自己評価						評価委員会評価		
		計画達成の状況						項目別評価	評価における特記事項	
第1	大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためによるべき措置	A	100	B	125	C	27	D	1	
		A	47	B	79	C	20	D	1	
(会津大学) 概ね計画どおり実施したもの、一部の項目については具体的な取組みに至らなかった。										
1	教育に関する目標を達成するための措置	A	53	B	46	C	7	D	0	II
		(会津大学短期大学部) 概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。								
(1)	教育の成果に関する目標を達成するための措置	A	71	B	88	C	16	D	0	II
		A	33	B	51	C	12	D	0	
(会津大学) 概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。										
(1)	教育の成果に関する目標を達成するための措置	A	38	B	37	C	4	D	0	I
		(会津大学短期大学部) 概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。								
(1)	教育の成果に関する目標を達成するための措置	A	9	B	7	C	2	D	0	(会津大学) 平成21年度より、学部・博士前期課程5年一貫教育プログラムを導入し、学部学生の大学院開講科目の受講を促進する取り組みや、英語での卒業論文の執筆・発表及び英語試験におけるTOEIC試験の導入など、学外や学生の能力向上を意識した体系的な英語教育の充実を図ったことについて評価できる。
		A	5	B	7	C	2	D	0	
(会津大学) 課外プロジェクトなど学生の意欲や自主性を尊重する科目の円滑な運用及び学部・博士前期課程5年一貫教育プログラムの導入などについて、概ね計画どおり実施した。										
(1)	教育の成果に関する目標を達成するための措置	A	4	B	0	C	0	D	0	(会津大学短期大学部) 学外実習の積極的な導入による学生の課題解決に向けた能力向上を図る取り組みについて評価できる。
		(会津大学短期大学部) ガイダンス時の履修指導や、教養基礎科目、専門教育科目、卒業研究等を中心とした課題発見・解決型教育の充実などについて、計画を上回る実績をあげた。								

評価項目		公立大学法人自己評価						評価委員会評価		
		計画達成の状況						項目別評価	評価における特記事項	
(2)	教育内容等に関する目標を達成するための措置	A	37	B	34	C	10	D	0	
		(会津大学) より効果的な学生募集広報計画による進学相談会の参加回数の増及び入試直前相談会の開催や、推薦入試Bの定員の拡大、(仮称)会津大学修学支援宿泊施設整備の基本設計及び実施設計の策定、語学研究センター中心の必要な英語教育などについて、概ね計画どおり実施した。							(会津大学) アンケート等をもとに策定した「学生募集広報計画」に基づき、進学相談会への参加回数の増や、新たに入試直前相談会の開催を試みるなど、学生志願者の増や優れた学生の確保に積極的に取り組んだことについて評価できる。	
(3)	教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置	A	20	B	10	C	2	D	0	II
		(会津大学短期大学部) 高校訪問等の広報活動の充実、入学試験制度の検証、少人数教育を重視した教育課程の充実、情報リテラシー教育の充実、シラバスの改善、オフィスアワー等による個別指導の充実、学生参画型実践教育の充実などについて、概ね計画どおり実施した。							(会津大学短期大学部) 資格取得希望者に対する指導等に努めた結果、中期計画の数値目標について、食物栄養学科の栄養士免許資格及び社会福祉学科の保育士資格では数値目標を達成したことについて評価できる。 社会福祉学科の社会福祉士受験資格については、その向上が求められる。 栄養士免許資格 実績100.0%(目標 100%) 保育士資格 実績100.0%(目標 100%) 社会福祉士受験資格 実績 95.8%(目標100%)	
		A	13	B	15	C	2	D	0	II
		A	4	B	8	C	0	D	0	
		(会津大学) FD推進委員会の設置によるシラバスの改善、授業評価の全面的見直しや、基幹的な計算機システムの更新、遠隔講義のシステムの導入などについて、概ね計画どおり実施した。						II	(会津大学) FD(faculty development:教員能力開発)推進委員会において授業評価の方法を見直し、学生が回答しやすい評価項目への変更や、評価結果の公表など、より透明性の高い評価を行ったことについて評価できる。	
		(会津大学短期大学部) 地域に関する教育内容の全学的な充実、コンピュータシステムによる学生への効率的な連絡と教職員間の円滑な情報共有、また、「学生による授業評価」等の授業改善への活用等について、概ね計画どおり実施した。							(会津大学短期大学部) 学生による授業評価(アンケート)を授業改善に反映させる取り組みや、FDに対する職員の意識改革を進めたことについて評価できる。	

評価項目		公立大学法人自己評価						評価委員会評価	
		計画達成の状況						項目別評価	評価における特記事項
		A 12	B 32	C 2	D 0				
		A 7	B 12	C 2	D 0				
(会津大学) 少人数のクラス編成及び修学支援室の支援体制や、(仮称)会津大学修学支援宿泊施設整備の基本設計及び実施設計の策定、TA、RA制度の充実、進路ガイダンス及び就職支援などについて、概ね計画どおり実施した。									
	(4)	A 5 B 20 C 0 D 0						II	(会津大学短期大学部) オフィスアワー等によるきめ細かい学生指導、授業料免除制度や奨学金制度の活用による経済的支援、「進路ガイドブック」の作成・活用等による進路決定支援などについて、概ね計画どおりに実施した。
		A 12 B 26 C 7 D 1							(共通) 四大、短大ともに就職活動に対する各種支援を行い、中期目標の数値目標(就職希望者の就職率)について、短大では数値目標を達成したことについて評価できる。 四大(学部) 及び四大(大学院)では、目標に及ばなかった。 四大(学部) : 実績 92.5%(目標100%) 四大(大学院) : 実績100.0%(目標100%) 短大 : 実績 95.9%(目標 95%)
	2	A 6 B 19 C 5 D 1						II	(会津大学) 概ね計画どおり実施したもの、一部の項目については具体的な取組みに至らなかった。
		A 6 B 7 C 2 D 0							(会津大学短期大学部) 概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。

評価項目		公立大学法人自己評価							評価委員会評価	
		計画達成の状況							項目別評価	評価における特記事項
(1)	研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置	A	8	B	11	C	0	D	0	(会津大学) 月周回衛星(SELENE)データに基づく研究論文の掲載、国際会議への支援及び公開講座、産学連携フォーラム等の開催による研究成果の社会への還元などについて、概ね計画どおり実施した。
		A	4	B	8	C	0	D	0	
(2)	研究実施体制等の整備に関する目標を達成するための措置	A	4	B	3	C	0	D	0	(会津大学短期大学部) 地域活性化センター受託事業の展開や卒業研究の活用、研究成果の「研究年報」等への掲載などについて、計画を上回る実績を上げた。
		A	2	B	11	C	5	D	1	
		A	4	B	15	C	7	D	1	(会津大学) 先端情報科学研究センターを設置し、センター内に目標を明確にした研究を行うクラスターを開設することについては、計画どおり実施したもの、大学としての研究成果の評価を行うためのデータ収集については、具体的な取組みに至らなかった。
		A	2	B	4	C	2	D	0	
		A	2	B	11	C	5	D	1	(会津大学短期大学部) 研究者データベースの充実、地域社会のニーズと本学シーズのマッチングの展開、地域の産学民官が連携した共同研究・受託研究の実現などについては、概ね計画どおり実施した。
		A	2	B	4	C	2	D	0	

評価項目		公立大学法人自己評価							評価委員会評価				
		計画達成の状況											
3	地域貢献に関する目標を達成するための措置	A	12	B	11	C	4	D	0	II			
		A	4	B	9	C	3	D	0				
		(会津大学) 概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。											
		A	8	B	2	C	1	D	0				
		(会津大学短期大学部) 概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。											
		A	9	B	7	C	3	D	0				
		A	3	B	6	C	2	D	0				
	(1) 教育研究における地域社会や県政との連携・協力に関する具体的方策	(会津大学) コンピュータサイエンスサマーキャンプ、パソコン甲子園の実施、公開講座等の開催などについて、概ね計画どおり実施した。											
		A	6	B	1	C	1	D	0				
		(会津大学短期大学部) 地域活性化センターにおける公開講座・派遣講座、学生参画型実践教育、様々な受託事業の実施などについて、概ね計画どおり実施した。											
		(会津大学) 様々な団体等との連携・協力により、教育研究の推進が行われていることについて評価できる。											
		○県教育委員会 ・会津若松市内の小学校への理科教育支援 ・理数教育プログラムを開発する「天地人プロジェクト～いざ科学のフィールドへ～」(独立行政法人科学技術振興機構採択) ○企業・団体(地域活性化・IT人材の育成) ・会津ITサマーフォーラム ・コンピュータサイエンスサマーキャンプ ・パソコン甲子園など ○福島県立医科大学 ・会津大学の情報科学と医療技術の連携											
(会津大学短期大学部) 地域活性化センター事業として「会津の宝」活用事業 地域情報発信事業などが産学民官協働・連携で実施され、同事業は、学生の参画型実践教育の場としても活用されていることについて評価できる。 また、地域のデザインコンペティションなどへ学生が積極的に参加し、賞を獲得するなど、地域活性化にも貢献していることについて評価できる。													

評価項目			公立大学法人自己評価							評価委員会評価		
			計画達成の状況							項目別評価	評価における特記事項	
			A	3	B	1	C	1	D	0		
			A	1	B	1	C	1	D	0		
(2)	地域産業の振興に関する具体的方策		(会津大学) 会津ITサマーフォーラムの実施や産学官連携への本学外国人教員の知識の活用については計画どおり実施したもの、サテライトオフィス設置のための情報収集については、実施が不十分であった。							I	(会津大学) 「会津ITサマーフォーラム2009」を開催し、県内外のIT企業、技術者、研究者をはじめ、地域住民や学生など約370名が参加するとともに、その分科会において、最先端のIT情報の発信、農業現場のIT活用、会津大学発ベンチャー企業によるIT事業の紹介、先端科学情報研究センターの取り組みなどを紹介するなど、会津地域より全国へ情報を発信したことについて評価できる。	
			A	2	B	0	C	0	D	0		(備考)平成21年度末時点で会津大学発ベンチャー企業の数は25社。 ※平成20年度末時点で会津大学発ベンチャー企業の数は25社で、全国の公立大学で1位(経済産業省調査)。
(3)	地域貢献の評価に関する具体的方策		A	0	B	3	C	0	D	0		
			A	0	B	2	C	0	D	0	II	
			(会津大学) 地域貢献となる事業項目の評価などについて、概ね計画通り実施した。									
			A	0	B	1	C	0	D	0		
			(会津大学短期大学部) 地域活性化センターを中心とした地域貢献の事業項目にかかる評価について、概ね計画どおり実施した。									

評価項目			公立大学法人自己評価							評価委員会評価	
			計画達成の状況							項目別評価	評価における特記事項
4	(1)	国際交流に関する目標を達成するための措置	A	5	B	0	C	0	D	0	I
			A	4	B	0	C	0	D	0	
(会津大学) 計画を上回る実績をあげた。											
4	(1)	国際交流の推進に関する具体的方策	A	1	B	0	C	0	D	0	I
			A	4	B	0	C	0	D	0	
(会津大学) 国際交流協定の締結、締結校との具体的交流などについて、計画を上回る実績をあげた。											
4	(1)	国際交流の推進に関する具体的方策	A	1	B	0	C	0	D	0	I
			(会津大学短期大学部) 国際的な交流会への学生の参加について、計画を上回る実績をあげた。								
(会津大学) 国際戦略本部において海外の大学との国際交流協定締結を進め、中期計画の数値目標(締結校15校)に対し、平成21年度末で既に47校との締結を行い、大きく数値目標を上回っている。 また、平成21年度にシステム知能学に関する国際学会をはじめとして5つの国際会議を開催したほか、グローバルシチズン・シンポジウムへの支援を行った。 こうした取り組みについて評価できる。											

評価項目		公立大学法人自己評価							評価委員会評価			
		計画達成の状況							項目別評価	評価における特記事項		
第2	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	A	10	B	27	C	2	D	0	II		
		A	6	B	23	C	1	D	0			
(会津大学)		概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。										
(会津大学短期大学部)		概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。										
1	運営体制の改善に関する目標を達成するための措置	A	1	B	7	C	0	D	0	II		
		概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。										
(1)	効果的な組織運営に関する具体的方策	A	1	B	3	C	0	D	0	II		
		柔軟で機動的な法人運営を実現するため、役員会、経営審議会、教育研究審議会を適切に運営するなど、概ね計画どおり実施した。										
(2)	戦略的な学内資源配分の実現等に関する具体的方策	A	0	B	4	C	0	D	0	II		
		事務局等組織の再編と係制の導入や各種委員会の運営及び学外委員の登用などについて、概ね計画どおり実施した。 (短大はA:0、B:3、C:0、D:0である)										

評価項目		公立大学法人自己評価							評価委員会評価		
		計画達成の状況							項目別評価	評価における特記事項	
2	教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置	A	2	B	1	C	0	D	0	I	
		A	1	B	1	C	0	D	0		
(会津大学) 計画を上回る実績をあげた。											
(1)	教育研究組織の柔軟かつ機動的な編成・見直し等に関する具体的方策	A	1	B	0	C	0	D	0	I	
		A	1	B	1	C	0	D	0		
(会津大学) 組織の見直しなどについて、計画を上回る実績をあげた。											
(会津大学短期大学部) 組織の見直しなどについて、計画を上回る実績をあげた。											
当評価委員会の評価結果等を踏まえ、平成21年度から、事務局を3課1室から2課1室に再編して各業務の集約化を図り、総務予算課、企画連携課を設置するとともに、事務局各課・室に係制を導入するなど、効率的な執行体制の確保に努め、事務の効率化・合理化を推進したことについて評価できる。											

評価項目			公立大学法人自己評価							評価委員会評価	
			計画達成の状況							項目別評価	評価における特記事項
			A	5	B	11	C	2	D	0	
			A	2	B	7	C	1	D	0	
(会津大学) 概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。											
			A	3	B	4	C	1	D	0	
(会津大学短期大学部) 概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。											
			A	3	B	7	C	1	D	0	
			A	2	B	4	C	0	D	0	
(会津大学) 公募制による教員の採用、多様な任用制の活用・運用などについて、概ね計画どおり実施した。											
			A	1	B	3	C	1	D	0	
(会津大学短期大学部) 公募制を原則とした教員選考の実施、優秀な女性教員の採用などについて、概ね計画どおり実施した。											
										II	
										II	(会津大学) 産学イノベーションセンターの専任教員については3年の任期制にしたり、学内教員と高度な専門分野で共同研究ができる者については客員研究員として招聘するといった、教員の多様な任用制を行ったことについて評価できる。

評価項目		公立大学法人自己評価							評価委員会評価		
		計画達成の状況							項目別評価	評価における特記事項	
(2)	非公務員型を生かした柔軟かつ多様な人事システムの構築に関する具体的方策	A	2	B	4	C	1	D	0	II	
		(会津大学) 学内昇任基準の適正な運用などについて、概ね計画どおり実施した。									
4	事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置	A	2	B	1	C	0	D	0	II	
		(会津大学短期大学部) 教育・研究上の業績、学内運営や社会への貢献度などを総合的に勘案する学内昇任基準の施行、職員研修の充実などについて、計画を上回る実績を上げた。									
(1)	事務組織の機能・編成の見直しに関する具体的方策	A	2	B	1	C	0	D	0	I	(会津大学) 専門的知識、能力を有する大学法人職員の採用については、段階的、計画的な採用を行うため、職員採用試験を実施し、4名を採用した(平成21年4月:4名)ことについて評価できる。
		(会津大学) 法人職員の段階的、計画的な採用、研修受講による能力の向上などについて、計画を上回る実績をあげた。									
(2)	事務処理の効率化・合理化に関する具体的方策	A	0	B	7	C	0	D	0	II	
		(会津大学) 学生へのサービス向上及び事務組織の検討などについて、概ね計画どおり実施した。 (短大はA:0、B:3、C:0、D:0である)									

評価項目		公立大学法人自己評価						評価委員会評価	
		計画達成の状況						項目別評価	評価における特記事項
第3	財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	A 3 B 12 C 2 D 0 概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。						II	
1	外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置	A 1 B 7 C 2 D 0 大学施設の利用による収入増などについて、概ね計画どおり実施した。 (短大はA:1、B:4、C:2、D:0である)						II	(会津大学) 施設使用料については、大学ホームページによる利用制度の周知等を行い、昨年度より増加したことについて評価できる。
2	経費の節減に関する目標を達成するための措置	A 0 B 3 C 0 D 0 組織見直し及び環境方針の周知・推進、会議開催等の効率化・合理化について、概ね計画どおり実施した。 (短大はA:0、B:2、C:0、D:0である)						II	
3	資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置	A 2 B 2 C 0 D 0 施設の利用増加、計画的・効率的な維持管理について、計画を上回る実績をあげた。 (短大はA:0、B:1、C:0、D:0である)						II	

評価項目		公立大学法人自己評価							評価委員会評価	
		計画達成の状況								
第4	教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価に関する目標を達成するためにとるべき措置	A	3	B	13	C	2	D	0	II
		(会津大学) 概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。								
		A	2	B	5	C	1	D	0	
1	自己点検・評価の実施に関する具体的方策	(会津大学短期大学部) 概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。							II	
		A	1	B	6	C	2	D	0	
		A	0	B	4	C	1	D	0	
2	第三者評価の実施に関する具体的方策	(会津大学) 自己点検評価の実施及び内部牽制体制の強化などについて、概ね計画どおり実施した。							II	
		A	1	B	2	C	1	D	0	
		(会津大学短期大学部) 評価組織を活用した評価や結果の公表、認証評価受審のための自己評価書の作成準備などについて、概ね計画どおり実施した。								
		A	1	B	3	C	0	D	0	(会津大学短期大学部) 中期計画に向けて、受審時と同様の基準に則った自己評価書を試行的に作成して、大学評価・学位授与機構の訪問指導を受けたことについて評価できる。
		A	0	B	2	C	0	D	0	
		(会津大学) 大学評価・学位授与機構による認証評価に向けた自己評価書の作成について、概ね計画どおり実施した。								
		A	1	B	1	C	0	D	0	
		(会津大学短期大学部) 機関別認証評価の平成22年度受審に向けた体制づくり、作業内容の検討などについて、計画を上回る実績を上げた。								
		A	1	B	1	C	0	D	0	

評価項目		公立大学法人自己評価							評価委員会評価	
		計画達成の状況							項目別評価	評価における特記事項
3	評価結果の活用に関する具体的な方策	A	1	B	4	C	0	D	0	(会津大学) FD活動を推進するための組織設置や教員業績データベースシステムの適切な運用について、概ね計画どおり実施した。
		A	1	B	2	C	0	D	0	
第5	教育及び研究並びに組織及び運営の状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置	A	3	B	5	C	0	D	0	(会津大学) 概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。
		A	1	B	3	C	0	D	0	
1	教育及び研究並びに組織及び運営の状況に係る情報公開・提供、広報に関する具体的な方策	A	2	B	2	C	0	D	0	(会津大学短期大学部) 計画を上回る実績をあげた。
		A	3	B	5	C	0	D	0	
		A	1	B	3	C	0	D	0	(会津大学) ホームページの充実、オープンキャンパスの開催などについて、概ね計画どおり実施した。
		A	2	B	2	C	0	D	0	
		(会津大学短期大学部)	ホームページの積極的な更新や報道機関などの活用による広報の充実、オープンキャンパスの内容の充実などについて、計画を上回る実績をあげた。							(会津大学) 平成21年度のオープンラボ(研究室公開)の研究室数は21(平成20年度は18、平成19年度は16)、入場者は約700名(前年度比50名増)と年々増加していることについて評価できる。 (会津大学短期大学部) サマーオープンキャンパスでは470名(前年度比32名増)、オープンキャンパスin紅葉祭は59名(前年度比54名増)と参加者が増加したことについて評価できる。

評価項目		公立大学法人自己評価						評価委員会評価	
		計画達成の状況						項目別評価	評価における特記事項
第6	その他業務運営に関する重要な目標を達成するためにとるべき措置	A 2 B 14 C 2 D 0 概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。						II	
1	施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための具体的方策	A 1 B 7 C 0 D 0 学生寮の基本設計及び実施設計の策定、建設工事着手や省コスト・省エネルギーに繋がる設備運用や機器更新、環境方針の学内周知・推進などについて、概ね計画どおり実施した。 (短大はA:0、B:1、C:0、D:0である)						II	(会津大学) (仮称)会津大学修学支援宿泊施設(学生寮)の整備について、当初の計画を前倒しして、平成23年4月からの入居開始に向けて 基本設計及び実施設計を策定し、平成22年3月下旬に着工したことについて評価できる。
2	健康管理・安全管理に関する目標を達成するための措置	A 1 B 7 C 2 D 0 セキュリティ体制の維持や学生相談室、保健室の周知・環境整備、災害発生時の体制整備と学内の防災意識の高揚などについて、概ね計画どおり実施した。 (短大はA:1、B:6、C:0、D:0である)						II	(会津大学短期大学部) 教職員の定期健康診断受診率が100%を達成したことについて評価できる。
第1～第6（計383項目）		A 125 B 220 C 37 D 1						II	

注1：自己評価の考え方

- A…年度計画を上回って実施している
- B…年度計画を予定どおりに実施している(達成度がおおむね90%以上)
- C…年度計画を下回って実施している(達成度がおおむね60%以上90%未満)
- D…年度計画を大幅に下回っている、または実施していない(達成度が60%未満)

注2：評価委員会の評価の考え方

- I…年度計画を十分に実施できている
- II…年度計画をおおむね実施できている
- III…年度計画を十分に実施できていない
- IV…年度計画を実施できていない